青森市埋蔵文化財発掘調査報告書　第63集

稲山遺跡

発掘調査報告書Ⅳ

平成13年度

青　森　市　教　育　委　員　会

序

青森市教育委員会では、平成10年度より東北縦貫自動車道八戸線建設事業に係わる稲山遺跡の発掘調査を実施しており、今年度も第四次に相当する発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代前期の竪穴式住居跡や埋設土器遺構、縄文時代後期の土坑など各種の遺構が検出されるとともに、土器や石器等多量の遺物が出土いたしております。

本書は、これら調査成果について、写真図版等を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。本書が文化財の保護・活用、歴史学習等、研究者はもとより市民の皆様にとりまして、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

調査の終始にわたる、調査員、関係機関並びに各位のご指導、地元町会からのご理解、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

青森市教育委員会

教育長　角　田　詮二郎

例　言

1. 本書は、青森市教育委員会が平成13年度に実施した東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設事業に係わる稲山道跡の発掘調査概要報告書である。
2. 稲山遺跡発掘調査は、日本道路公団の委託を受け実施した。
3. 稲山遺跡の遺跡番号は、01045である。
4. 本遺跡の発掘調査は、平成10年度から実施しており、今年度は第四次にあたる。
5. 発掘調査概報は、これまで「稲山遺跡発掘調査概報」、「稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ」、「稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ」（青森市教育委員会1999～2001）として刊行しており、本書は、4冊目にあたる。
6. 発掘調査報告書は、第一次調査にあたる平成10年度分については「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ」（青森市教育委員会2001）、第二次調査にあたる、平成11年度分については、「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ」（青森市教育委員会2002）として刊行しており、以後、年度ごとに刊行予定である。
7. 本書の編集・執筆は、調査担当者である小野貴之がおこなった。
8. 発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。

□ 青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター

目　次

序
例言
目次

はじめに……□ 1

稲山遺跡の概要……□ 1

今年度の調査から……□ 2

縄文時代前期の様相……□ 4

縄文時代後期の様相……□ 8

まとめ……12

は　じ　め　に

日本道路公団では、青森市と八戸市とを結ぶ東北縦貫自動車道八戸線建設を計画し、その取り掛かりの事業として青森市の東西を結ぶ青森～青森間16キロの路線建設に着手することとなりました。しかし、建設予定地内には、熊沢、安田（2）、三内丸山（6）、栄山（3）、岩渡小谷（2）～（4）、稲山等複数の遺跡が所在していました。そこで、道路建設に先立ちこれらの遺跡では、記録保存のための発掘調査が実施されることとなりました。

青森市教育委員会では、平成９年度に市内岩渡に所在する熊沢遺跡の発掘調査を実施し、その後平成10年度から、市内諏訪沢に所在する稲山遺跡の発掘調査を実施しています。これまでの調査では、竪穴式住居跡23軒、土坑1,161基、埋設土器遺構44基、遺物集中ブロック２個所、石棺墓３基、配石遺構５基等の遺構を検出し、また、段ボール箱で1,580箱分の遺物が出土しています。引き続き今年度も日本道路公団の委託を受け６月18日から８月３日までの期間にわたり、発掘調査を実施しました。

稲山遺跡の概要

本遺跡は、青森市の東部、青森市大字諏訪沢字山辺に所在しています。本遺跡は、青森市東部の山地に立地しており、砥取山から北に伸びる小山地の末端部に相当する稲山の標高10～40mの南丘陵に位置しています。本遺跡から陸奥湾へは、直線距離で3km、東を流れる野内川へは、直線距離で2kmの距離となっています。

青森市には多くの遺跡があり、その数は、平成14年３月末で307個所にのぼります。本遺跡の付近にも様々な遺跡があります。付近の遺跡には、散布地として後菰、桑原、牛蒡畑、諏訪沢山辺（1）遺跡や中世の館跡である戸崎館遺跡があります。また、野内川以北には、縄文時代後期の石棺墓が見つかっている山野峠遺跡や縄文時代晩期の貝塚である大浦貝塚、同じく晩期の竪穴式住居跡や墓坑が見つかっている長森遺跡など著名な遺跡があります。また、遺跡南西側には戸山団地造成に先立つ発掘調査で、縄文時代早期、中～晩期、弥生、平安時代の遺物のほか、縄文、平安時代の集落が見つかった蛍沢遺跡があります。また、青森県新総合運動公園建設事業に伴い宮田地区においては、上野尻、山下、米山（2）、玉水（2）遺跡等の発掘調査がおこなわれています。上野尻遺跡では、掘立柱建物跡群が確認され、遺跡の一部が保存されることとなりました。

これまでの調査では、本遺跡が縄文時代前期と後期を主体とする遺跡であること、調査区中央部の台地を中心に遺構・遺物が密集していること、台地の頂部や斜面において遺構の種類により作られる地点が決まっており、各種の遺構はそれぞれまとまった分布を呈していることなどがわかりました。

周辺の遺跡

今年度の調査から

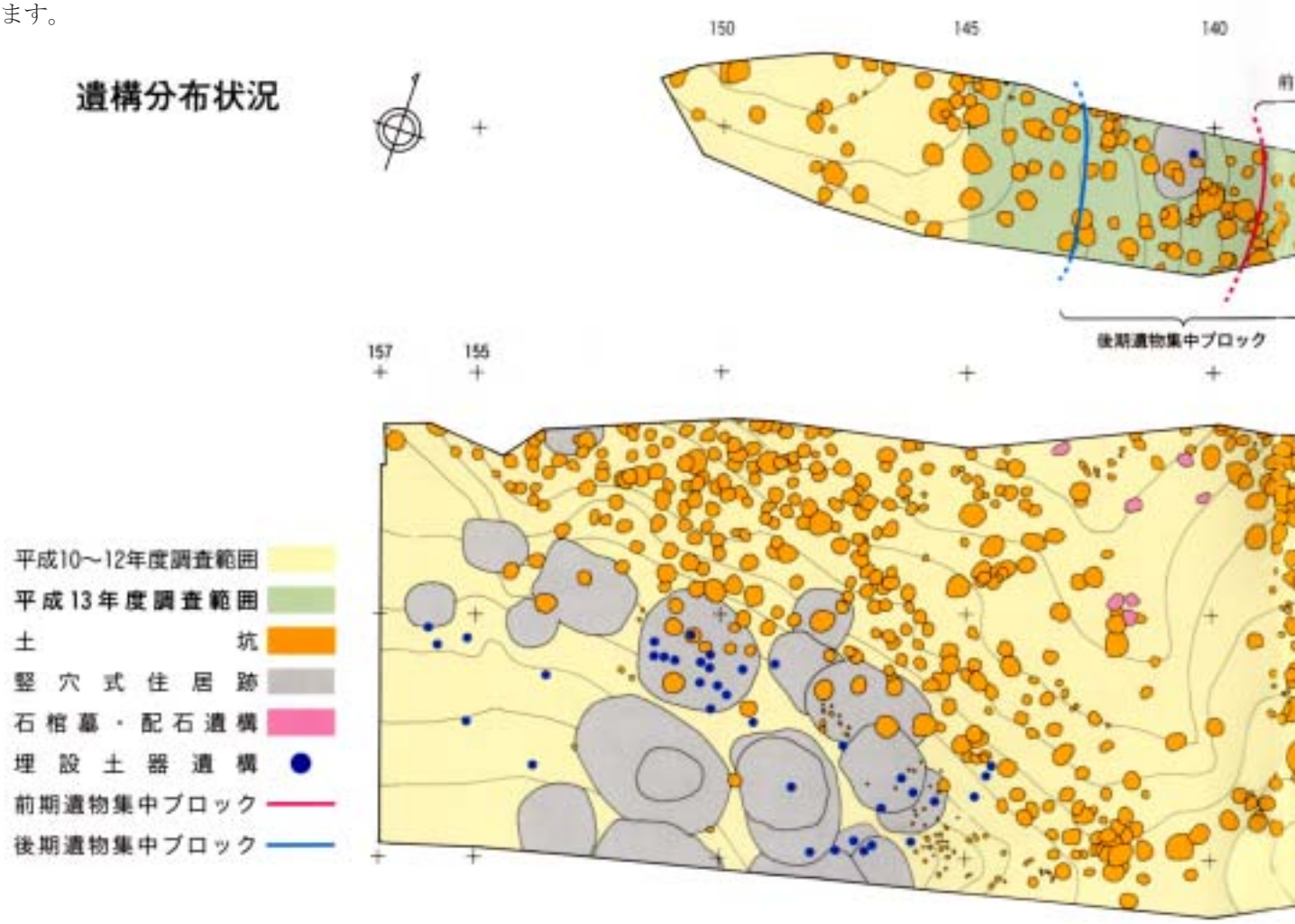
本遺跡の調査対象範囲は、東西に約600mにわたる細長い形です。調査区の地形は、南に下る丘陵の斜面ですが、中央部は一部突き出した台地となっています。中央部を挟んで西側はなだらかな丘陵、東側は比較的標高の低いほぼ平坦な地形となっています。今年度は、調査区の北側、特に台地の北側頂部から東側斜面にかけて面積580m^{2}の調査を実施しています。

今年度見つかっている遺構及び遺構数は、縄文時代前期の竪穴式住居跡4軒、埋設土器遺構3基、縄文時代前期と後期の土坑（小ピット含む）合わせて108基のほか、縄文時代前期と後期の各遺物集中ブロックです。今年度見つかっている遺物の量は、段ボール箱で100箱分です。

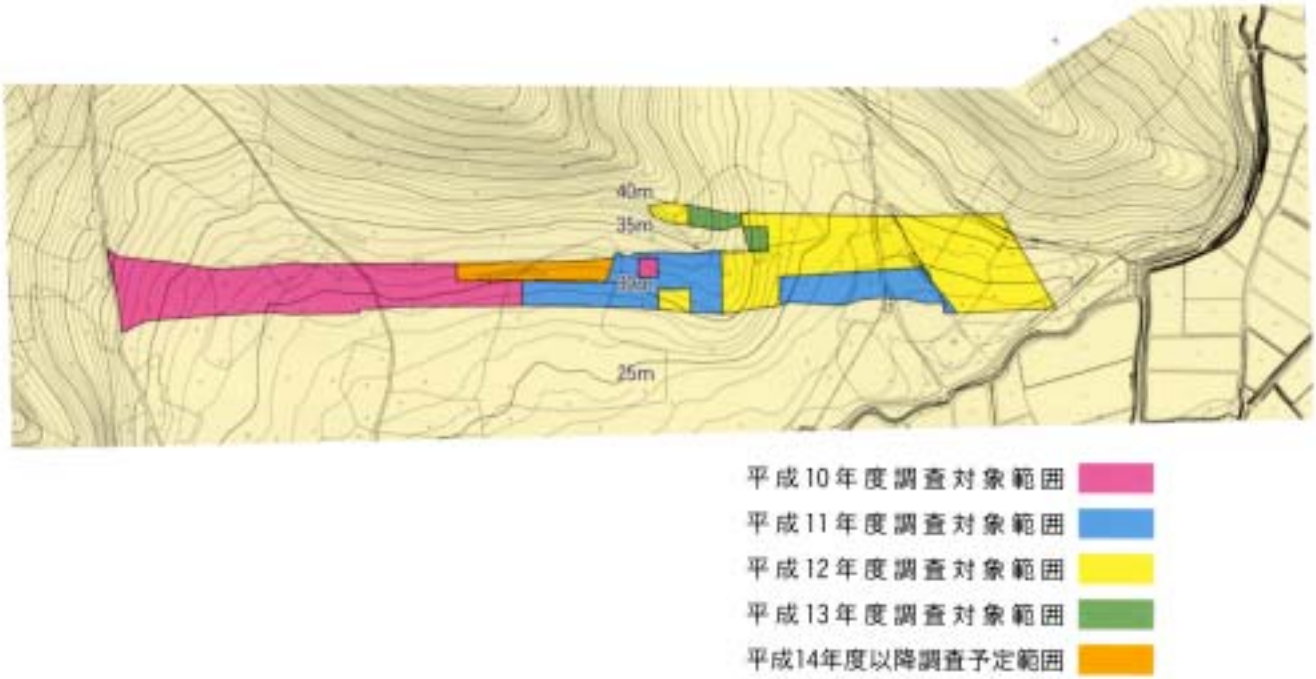
台地の頂部では、土坑が見つかっています。これまでの調査では、台地頂部で石棺墓や配石遺構が見つかっていましたが、今年度の調査では見つかっていません。

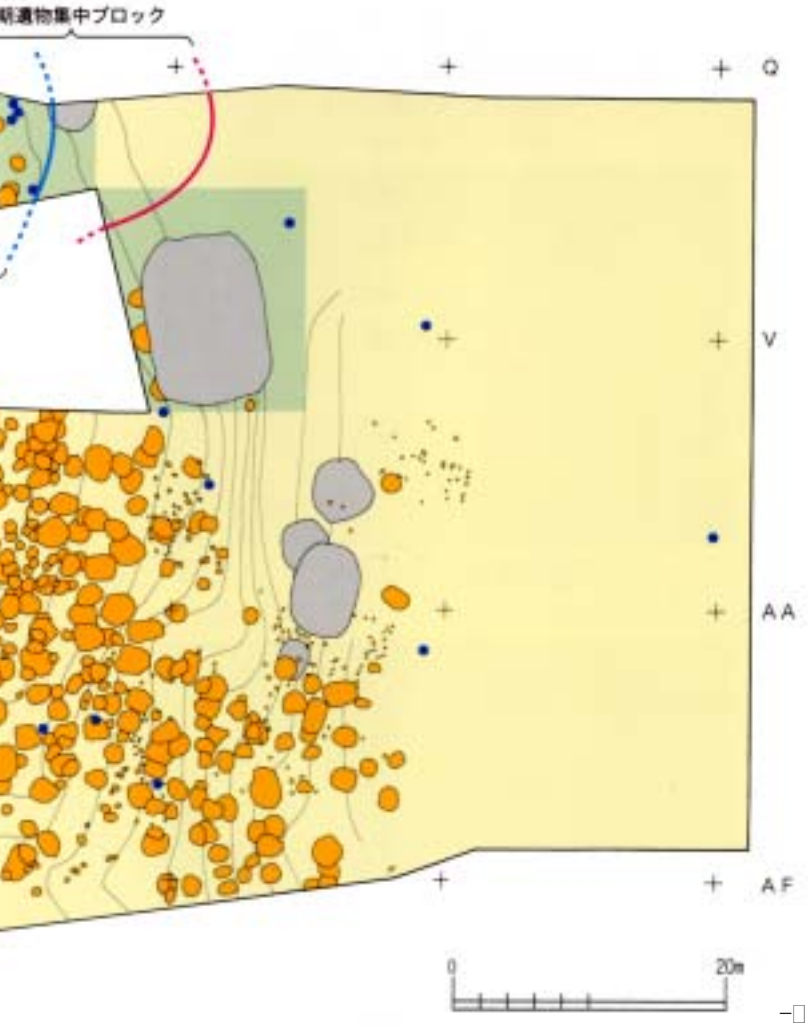
台地の東斜面では、全体に土坑が見つかっているほか、斜面下部では竪穴式住居跡や埋設土器遺構が見つかっています。また、縄文時代後期と前期の各遺物集中ブロックが見つかっています。前期の遺物集中ブロックは、自然地形の斜面を利用したと考えられるもので、昨年度に見つかっているものの上方への延長部分に相等します。また、後期の遺物集中ブロックも、おおむねこれまでの調査で見つかっているものの延長と考えられますが、丘陵上方に位置するためか、層厚や遺物の包含量等規模が小さい印象を受けます。

これら遺構の分布状況は、これまでに調査をおこなってきた台地の他の部分とおおむね同様となっています。



調査対象範囲図


40m
35m
30m
25m
平成10年度調査対象範囲
平成11年度調査対象範囲
平成12年度調査対象範囲
平成13年度調査対象範囲
平成14年度以降調査予定範囲


遺物集中ブロック
Q
V
AA
AF
0
20m

縄文時代前期の様相

竪穴式住居跡

本遺跡で見つかっている竪穴式住居跡は全て縄文時代前期のものと考えられます。

今年度の調査で見つかっている4軒の住居跡は、台地斜面の中位から下側に位置しています。

これまでの調査で見つかっているものと同様に全体として台地斜面の土坑を取り囲むように分布しています。

これらの住居跡は、他の遺構との重複や、調査区端に位置するため、形や規模の明確でないものが多いのですが、その中で第24号竪穴式住居跡は、斜面下方に位置し、平面形が隅丸長方形を呈する、大型の竪穴式住居跡で、規模は長軸12m、短軸9mです。斜面の高い側にテラスを有しており、斜面の低い側になるにつれ徐々に不明瞭となります。床面では3本2列の主柱穴と思われるピットが見つかっています。また、壁際には周溝が巡っており、さらに壁柱穴が巡っています。

第25号竪穴式住居跡は、斜面下方に位置しています。第24号竪穴式住居跡と重複し、壊されているため規模等は不明です。壁際付近で8基の柱穴状のピットが見つかっており、壁柱穴の可能性が考えられます。

第26号竪穴式住居跡は、斜面中位に位置し、5基の土坑と重複していますが、残存部から推定しますと平面形が隅丸長方形を呈するものと考えられます。床面では12基の柱穴状のピットが見つかっており、いくつかは主柱穴の可能性が考えられます。

第27号竪穴式住居跡は、斜面下方に位置し、調査区端に位置するため、規模等は不明です。床面では1基の柱穴状のピットが見つかっており主柱穴と考えられます。また、壁際には、小規模の壁柱穴が巡っています。

これまでの調査で見つかっている住居跡には、明確な炉は認められないものの、床面中央部で炉の可能性が考えられる浅い掘り込みがあり、そのほか、埋設土器や、特殊施設等が見つかっている例がありましたが、今年度の住居跡からは、その

第24号竪穴式住居跡

第25号竪穴式住居跡

第26号竪穴式住居跡

第27号竪穴式住居跡

ような施設は、見つかっていません。また、住居の壁については、丘陵斜面の上方は明瞭ですが、斜面下方に向かうにつれ不明瞭となる傾向があり、これは、これまで見つかっているものと、今年度のものとで共通しています。

住居跡から見つかっている遺物について、床面においては、第26号竪穴式住居跡床面から石匙や石皿が見つかっていますが、その他は、いずれの住居跡からも少量の土器片が見つかるに留まっています。

また、これまでの調査では、住居が使われなくなった窪地に多数の土器を廃棄しているものが2軒見つかっていますが、今年度については、第27号竪穴式住居跡の窪地から数個体の土器が見つかるに留まっています。

石器出土状況（第26号竪穴式住居跡）

土器出土状況（第27号竪穴式住居跡）

土　坑

前期の土坑は、斜面の頂部に位置し、斜面の中位から下では見つかっていません。

形状は、断面形がフラスコ状や袋状を呈しており、これまでの調査で最も数多く見つかっているものです。底面のおおむね中央部に小さいピットを有するものがあります。

土坑の中からは、散発的に土器や石器等の遺物が見つかっているものが大半ですが、しばしば完形の土器と磨製石斧や石匙等の石器が一緒に納められているものがあり、これらは、墓に納めた副葬品としての性格が考えられるものです。

これまでの調査でもこのような土坑は見つかっていますが、全体としてこれらは、住居跡が位置している台地斜面の下方ではなく、それより高い位置、特に今年度調査した、調査区の北側である、台地の頂部で見られ、縄文時代前期の集落の中での、墓域である可能性が高いのではないかと考えられます。

前期の土坑

土器と石器の出土状況

埋設土器遺構

埋設土器遺構が3基見つかっています。地面に穴を掘り、穴の中に土器を納めています。子供のお墓と考えられるものです。竪穴式住居跡付近や、縄文時代前期の遺物集中ブロックが分布する台地の東斜面下方において見つかっています。

これまでの調査で見つかっている埋設土器遺構は、縄文時代前期末葉の円筒下層d_1式土器が納められていましたが、今年度の調査では、これまでの調査で見つかっているものより古い、縄文時代前期中葉の円筒下層b式土器が納められているものが見つかっています。

納められている土器は、口の部分が下に向けられており、斜めや、逆さまになっています。また、逆さまに納められた土器の口の部分を塞ぐように石を納めているものが見つかっています。

埋設土器遺構（断面）

口を塞いでいる状況

遺物集中ブロック

台地斜面の自然地形を利用したと思われる前期の遺物集中ブロックが見つかっています。昨年度の調査で斜面下側の平坦面について調査しており、今年度はその上方、平坦面から斜面中位にかけてを調査しました。その範囲は後期の遺物集中ブロックと部分的に重なっています。斜面の下側になるにつれ厚くなっており、最も厚い地点では、150cm近い層厚となっています。ロームや角礫等が多量に混入する褐色土が主体となっており、そこから、横転して潰れたような状況で前期の土器が見つかっています。今年度の遺構外の土器段ボール68箱分のうち40箱は、この遺物集中ブロックから見つかっています。上位では、前期末葉の円筒下層d_1式土器が、下位からは、前期中葉の円筒下層b式土器が見つかっています。

遺物集中ブロック堆積状況

遺物集中ブロック土器出土状況

土　器

前期の土器は、全体に遺構内外で破片の状況で見つかっているものが大半ですが、中には、個体の原型を残して見つかっているものがあります。それらは、土坑、竪穴式住居跡、埋設土器遺構等の遺構内のほか、遺物集中ブロックでも見つかっています。

前期の土器の形は、主にバケツを細長くしたような筒状の形をしており、円筒土器と呼ばれています。その中でも、やや口の部分が広がるものの全体として細長い筒状の形のものと、口が大きく開くバケツ形のものとがあります。また、底部はおおむね平坦もしくは底部中央が若干上がる程度のものですが、まれに底部が台状になっているものが見つかっています。土器の器高は、20～50cmの中で大体が収まっており、大形（40～50cm程度）、中形（30cm程度）、小形（20cm程度）のおおむね3タイプが見られるようです。

これらの前期の土器は縄文時代前期中葉から末葉にかけての時期のもので、円筒下層b式土器から円筒下層d_1、d_2式土器に相当すると考えられます。これまでの調査では、円筒下層d_1式土器が多数で、その次に円筒下層b式土器が多く見つかっており、これらが前期の土器の大半を占めています。

土器の表面には文様が施されており、大半の土器の口縁部と胴部では文様が異なります。円筒下層b式土器では、口縁部に縄を棒に巻き付けた絡条体を横位に回転して施文しているものが多数を占めます。胴部には縄を撚り合わせた縄文や絡条体を回転して施文しており、文様が縦方向に走るものが多く見られます。また、土器の胎土中には多量の植物の繊維が混入されています。

円筒下層d_1式土器になると幅の狭い口縁部に縄文や絡条体を横位、斜位、縦位に押圧して施文しているものが数多く見られます。また、2条の撚りの異なる縄文を結んで横位に回転している羽状縄文も多く見られます。土器の胎土中には植物の繊維が混入されていますが、古手の円筒下層b式土器と比べるとその量はとても少ないものとなっています。

前期の土器

石　器

縄文時代前期の石器は、剥片石器では、石鏃、石匙、石篦などが見つかっています。特にその中で点数が多いのは石匙です。また、最も点数が多いものは剥片の一部に刃部を作り出している不定形石器です。

このほか、磨製石斧や半円状扁平打製石器、すり石、敲石、凹石、石皿などの敲磨器が見つかっています。

磨製石斧は、土坑の中で土器と一緒に納めたような状況で見つかっている例があります。

半円状扁平打製石器は、縄文時代前期、中期の遺跡から多数見つかっている石器です。

石鏃出土状況

半円状扁平打製石器出土状況

石皿出土状況

石匙の出土状況

土製品・石製品

前期の土製品や石製品は、これまでの調査で、土器片利用土製品や、けつ状耳飾などが見つかっています。後期と比べると、見つかっている土製品・石製品の点数や種類は少なく、その中で点数が最も多いものは土器片利用土製品です。

今後の整理作業で見つかる可能性もありますが、今年度の現地調査では、土製品・石製品は目にしていません。

コラム　石器の使用痕

本遺跡の調査で見つかっている石器の中には、表面に使用痕跡と思われる光沢が見られるものがあります。中でも石匙にはその光沢が認められるものが多く見つかっています。石匙は、先が尖っているものや、丸みをおびているもの、縦に細長いもの、横に広がるものなど様々な形態のものが見つかっていますが、光沢はいずれにも認められるようです。

本遺跡で見つかっている石匙の使用痕跡について分析を委託したところ、イネ科の植物を切断したと思われる痕跡が認められています。

縄文時代後期の様相
遺物集中ブロック（捨て場）

縄文時代後期の遺物集中ブロックは、台地の東斜面に広がっています。これまでの調査でも後期の遺物集中ブロックは見つかっており、今年度のものについても調査していない地点を挟みますが、これまでに見つかっているものの延長ではないかと考えられます。10cm前後の表土下から後期の遺物集中ブロックとなっており、ローム、角礫や川から運んできたものと考えられる河原石などが多量に混入する褐色土が主体となり、後期の土器などの遺物がみつかっています。また、最下層には、黒色がやや強い地層が見られ、遺物がやや少なくなっています。これらの状況は、これまでの調査と同様ですが、今年度の調査では、その層厚が10～30cmとこれまでの調査の状況よりかなり薄く、遺物の包含量も少ないものでした。調査区全体は、南に下る丘陵ですが、今年度の調査区は、最も上方にあたり、これまで調査した下方になるにつれて層が厚くなっていくようです。

遺構外の土器、段ボール箱で68箱分のうち28箱分がこの遺物集中ブロックから見つかっています。

遺物集中ブロック堆積状況（地層上部）

土坑検出状況

土　坑

今年度の調査で見つかっている108基の土坑のうち1～2割程は、前期の土坑で、それ以外の大半は後期の土坑と考えられます。土坑は台地東斜面上に分布しています。これまでの調査と比較すると遺構の密度は薄いのですが、部分的には、激しい重複の見られる個所もあります。

形状は、断面形がフラスコ状、袋状を呈するものでこれまでの調査で数多く見つかっているタイプのものです。

土器の破片等、大半が散発的に遺物が見つかっているものですが、中には、深鉢形土器等の完形の土器を納めたのではないかと考えられるものもあり、それらは、副葬品としての可能性が考えられることから墓としての用途も想定されます。

フラスコ状土坑

土器出土状況

土器

縄文時代後期の土器は、土坑の中や台地の斜面において後期の遺物集中ブロックから見つかっています。

今年度の調査で見つかっている遺物の量は、段ボール箱で100箱分ですが、そのうち段ボール28箱分は遺物集中ブロックからの後期の土器です。

遺構内の土器には、横転して潰れた状況など個体の原型を留めるものもありますが遺物集中ブロックでは、破片が散乱したような状況のものが大半です。

前期の土器の器形は、深鉢形を呈しているものがほとんどですが、後期の土器の器形は、最も多いと思われるものは深鉢形を呈するものであるものの、そのほかにも浅鉢、鉢、台付鉢、壷などがあり器種が多くなります。

土器の文様は、器種に係わらず、ヘラ状工具による沈線文を主体に施文するものが多く、大部分の土器で渦巻文等の曲線的な文様を施しています。

そのほか、器面の大部分に撚糸文や沈線による格子目文を施すものや、全面に縄文を施すもの、無文のものなどが見つかっています。

これらの後期の土器は、これまでの調査で見つかっているものと同様、縄文時代後期初頭の土器や十腰内Ⅰ式土器に相当するものと考えられます。

土坑内出土状況

深鉢形土器

後期の土器

石器

縄文時代後期の石器は、剥片石器では、石鏃、石錐、石匙、石箆、大石平型石箆などが見つかっています。大石平型石箆は後期の時期の特徴的な石器です。また、剥片の一部に刃部を作り出す不定形石器が点数では最も多く見つかっています。そのほか、磨製石斧や、すり石、凹石、敲石などの敲磨器が多く見つかっています。

石鏃、石箆、磨製石斧など一部の石器では、実用に適さないのではないかと考えられるような小型のものが見つかっており、祭祀的な意味合いの強いものである可能性が考えられます。

これら石器の器種等の状況はこれまでの調査で見つかっている石器の状況とおおむね同様のものです。

不定形石器出土状況

石匙出土状況

土製品・石製品

後期の土製品・石製品は、前期と比べいろいろな種類のものが見つかっています。

これらは、土坑の中や後期の遺物集中ブロックから見つかっています。

今後の整理作業で増える可能性もありますが、現在のところ、土製品の点数は、鐸形土製品が1点、笠形土製品が1点、ミニチュア土器が1点、土器片利用土製品が17点です。

石製品の点数は、三角形岩版が4点、円形岩版が5点、その他の形状の岩版が2点、球状石製品が1点、有孔石製品が8点などです。なお、有孔石製品は人為的な孔があけられているものが1点でその他は、自然に穴のあいたものを遺跡内に持ち込んできたと思われるものです。

土製品・石製品共に、これまでの調査で見つかっている種類のもので、土器片利用土製品、三角形岩版、円形岩版の出土点数が多い傾向も同様ですが、今年度の調査では、後期の遺物集中ブロックの規模が小さいものであったためか、全体的に点数は少ないものとなっています。

後期の土製品

後期の石製品

ま と め

稲山遺跡は、青森市大字諏訪沢に所在し、青森市東部に広がる山地の末端部に相当する稲山の南丘陵、標高10～40mに位置しています。縄文時代前期後半と後期前半の時期を主体とする遺跡です。

今年度当委員会では、調査区中央部の台地北側を主体に面積580m²の発掘調査を実施しました。調査の結果、竪穴式住居跡、土坑、埋設土器遺構等の遺構と、土器、石器、土製品、石製品等段ボール箱で100箱分の遺物が見つかっています。遺構・遺物は、これまでの調査と同様、縄文時代前期・後期両時期共に台地を中心として広がっています。

縄文時代前期では、台地頂部から斜面上方にかけて、断面形がフラスコ状、袋状を呈する土坑が見つかっています。土坑の中には、完形土器と一緒に磨製石斧等の石器が納められることがあり、これらはお墓としての用途が考えられます。また、斜面中位から下側で竪穴式住居跡と埋設土器遺構が見つかっています。

竪穴式住居跡は、重複や調査区端に位置するため、規模等不明なもの2軒のほか、大型のもの1軒、中型のもの1軒が見つかっています。埋設土器遺構は、これまでの調査のものより、時期の古いものが見つかっています。そのほか斜面下方は、自然地形の斜面を利用した、前期の遺物集中ブロックとなっており、横転して潰れた状況で多数の復元可能な土器が見つかっています。

縄文時代後期では、断面形がフラスコ状、袋状を呈する土坑と後期の遺物集中ブロックが見つかっています。土坑は、これまでの調査のものと比べると分布の密度はやや低くなりますが、前期と比較すると密度は高く、複雑に重複する個所も見られます。また、後期の遺物集中ブロックは台地斜面で見つかっています。これまでの調査で見つかっているものの延長と考えられますが、調査区全体の中で稲山丘陵の上方に位置する今年度の調査区では、層厚が10～30cmと薄く、遺物もこれまでの調査と比較すると少ない状況です。また、これまでの調査では台地頂部において石棺墓や配石遺構が見つかっていますが、今年度の調査では、これらの遺構は見つかっていません。

今年度の遺構、竪穴式住居跡、土坑、埋設土器遺構、遺物集中ブロックは、これまでの調査で見つかっている各種の遺構と同様に台地を中心とするように広がっています。また、調査区北側まで石棺墓や配石遺構の分布は広がっていないことがわかりました。

本遺跡の調査は、来年度以降も実施する予定です。調査を予定している個所は、調査区中央部台地の西側にあたり、竪穴式住居跡や土坑が等高線に沿うようにやや西側に広がるのかどうか遺構分布がより明らかになるものと考えられます。

作業風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛍沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
〃		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
〃		1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書	第16集	1991	『山吹（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯（1）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第36集	1998	『桜峯（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野（2）遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第51集	2000	『桜峯（1）・雲谷山吹（3）遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田（1）遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書□』
〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』

報　告　書　抄　録

ふりがな	いなやまいせきはっくつちょうさがいほう
書名	稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第63集
編著者名	小野貴之
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒030－8555　青森県青森市中央一丁目22－5　TEL017－734－1111
発行年月日	西暦2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m2	調査原因
稲山（いなやま）	青森市大字（あおもりしおおあざ） 諏訪沢字山辺（すわのさわあざやまべ）	02201	045	40° 49′ 2”	140° 49′ 30”	20010618 ～ 20010803	580	道路建設（東北縦貫自動車道八戸線建設工事）に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
稲山（いなやま）	集落跡	縄文	竪穴式住居跡 土坑 埋設土器遺構 遺物集中ブロック	4軒 108基 3基 2	縄文土器 石器 土製品 石製品	

青森市埋蔵文化財調査報告書　築63集

稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ

発行年月日　平成14年3月29日
発　　行　青森市教育委員会
〒030－8555青森市中央一丁目22－5
TEL017－734－1111
印　　刷　青森オフセット印刷株式会社
〒030－0802青森市本町二丁目11－16
TEL017－775－1431